

大学におけるオリンピック教育 筑波大学における全学対象の総合科目としての教育実践について

筑波大学体育系、CORE 事務局 荒牧 亜衣

概要

2015年度からの5年間は、オリンピック・シンボルの五つの色、それぞれから連想されるテーマを設定し、毎年講義を構成している。14年目を迎えた本年度は、「黒」によって授業計画を立案した。

各回の講義と講師

- (1) 4月18日「オリエンテーション」
本科目のねらいや、各回の講義概要について紹介した。(嵯峨 寿 体育系)
- (2) 4月25日「ヒトラーと東京」
オリンピックの政治利用について、1936年ベルリン大会と第二次世界大戦により中止となった1940年東京大会との関係から学んだ。(後藤 光将 明治大学)
- (3) 5月9日「テロの標的 ブラックセブテンバー」
1972年ミュンヘン大会でおきたテロ事件の概要を解説し、オリンピックがテロの標的になる理由について探った。(成瀬 和弥 体育系)
- (4) 5月16日「ドーピングの広がり」
ドーピングという行為や禁止される理由について学習するとともに、スポーツ界が抱える課題や検査の限界についても説明があった。(木越 清信 体育系)
- (5) 5月23日「古代オリンピックの栄華と衰亡」
1200年続いた古代オリンピックがなぜ終焉を迎えたのか。そこには宗教的な理由が大きく影響していたことが明らかになった。(真田 久 体育系)
- (6) 5月30日「IOC スキャンダル」
1999年に発覚したソルトレイクシティ冬季大会招致に絡む買収疑惑について、当時最前線で取材を行った立場から、その全貌に迫った。(福原 直樹 人文社会系)
- (7) 6月6日「オリンピズムの冒涇」
2012年ロンドン大会で起きた「無気力試合」の顛末を振り返り、オリンピック・ムーブメント史の汚点と主張する根拠が示された。(嵯峨 寿 体育系)
- (8) 6月13日「開催都市の十字架」
1976年モントリオール大会を事例に、開催都市が背負う十字架について、大会前、大会後それぞれの視点から解釈した。(荒牧 亜衣 体育系)
- (9) 6月20日「新・国立競技場問題 明治神宮外苑の議論を中心に」
レガシー（後世に残す遺産）やランドスケープ・リテラシーの観点から、神宮外苑地域でオリンピックを行うことの賛否を問うた。(田中 伸彦 東海大学)
- (10) 6月27日「カーニバルの闇」
まもなく開幕する2016年リオデジャネイロ大会に向けて、ファベラの実情からオリンピック開催の意味について考えた。(嵯峨 寿 体育系)
- (11) 7月4日「期末試験」
期末試験

総括

暗部、闇、汚点、そして事件やスキャンダル。「黒」として映し出されたオリンピックに果たして光は差し込むのか。10回の講義は、オリンピック・ムーブメントの理想と現実をあらためて問い直す機会をもたらした。次年度は、「赤」を予定している。この色から連想される複数のイメージをヒントに、様々な視点からオリンピックについて学んでいくことになるだろう。